

[成果情報名] イバラトミヨ特殊型の生息地である小見川の水温環境

[要約] 小見川で水温を測定した結果、主生息域である羽入下橋～縄目橋（天然記念物指定区域）は、一年を通して水温が 12～16℃と安定していた。

[部署] 内水面水産試験場・資源調査部

[連絡先] TEL0238-38-3214

[成果区分] 研

[キーワード] イバラトミヨ特殊型、小見川、水温

[背景・ねらい]

イバラトミヨの生息地は、湧水が豊富な場所である。そのため、その生息場所の水温は一年を通じて安定していると考えられ、水温がイバラトミヨの生息する重要な要素の一つであると推測される。しかし、イバラトミヨ特殊型が生息する小見川において一年を通して水温を測定する調査は行われたことがない。また、将来的にイバラトミヨ特殊型の生息地を拡大するためには、その候補地である小見川の下流部の水温環境を把握しておく必要がある。

そこで、イバラトミヨ特殊型の生息地の条件を把握するため、一年を通して小見川の水温を測定した。

[成果の内容・特徴]

1. 図 1 に示した小見川の 4ヶ所（天然記念物指定区の最上流部、天然記念物指定区の最下流部、小見川中流部及び荷口川との合流点付近）に自記水温計を設置して、1 時間毎の水温を測定した。
2. 一日の最高水温をプロットしたグラフを図 2 に示す。天然記念物指定区の最下流部の水温は気温の上昇する夏場でも安定しており、ほぼ 12℃台であった。天然記念物指定区の最上流部の水温は小見川下流域に比べると低いものの、天然記念物指定区の最下流部の水温よりは高かった。また、水源地と st.2 における流量は、それぞれ 0.17 m³/s、0.35 m³/s であり、天然記念物指定区域の最下流部の流量は水源地の約 2 倍であった。これらは、天然記念物区間内で低水温の水が供給されていることを示していると考えられる。天然記念物区より下流側については、下流に進むにつれて水温が高くなっていた。
3. トミヨ属の夏期の生息分布温度について、6～12℃あるいは 7～15℃という報告があり、小見川天然記念物指定区域の水温はほぼこれらと一致していた。

[成果の活用面・留意点]

[具体的なデータ]

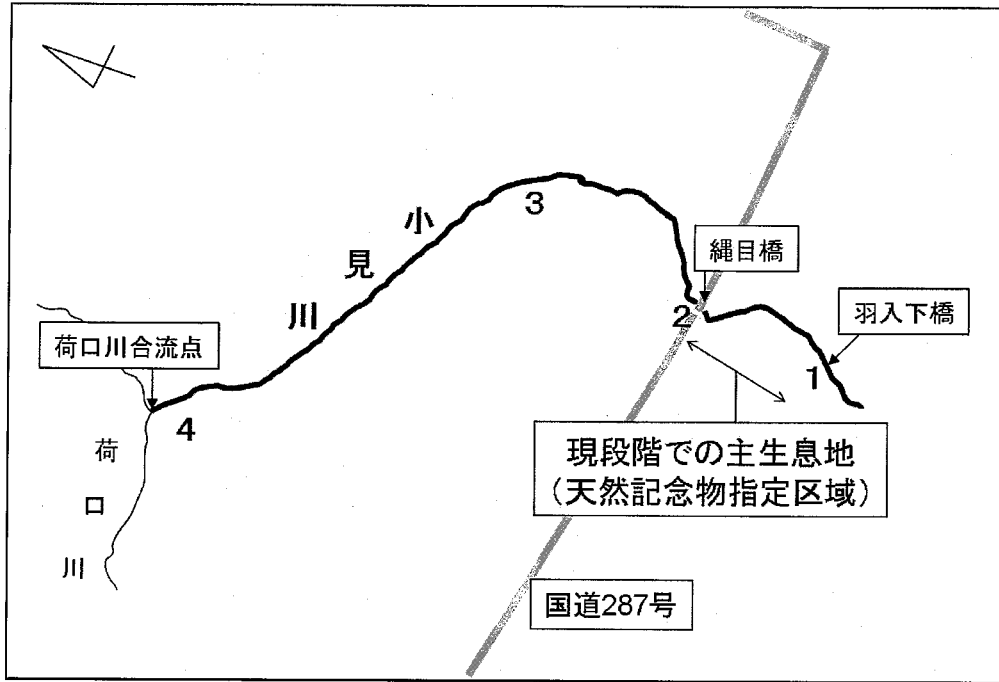


図1 小見川における水温計設置場所

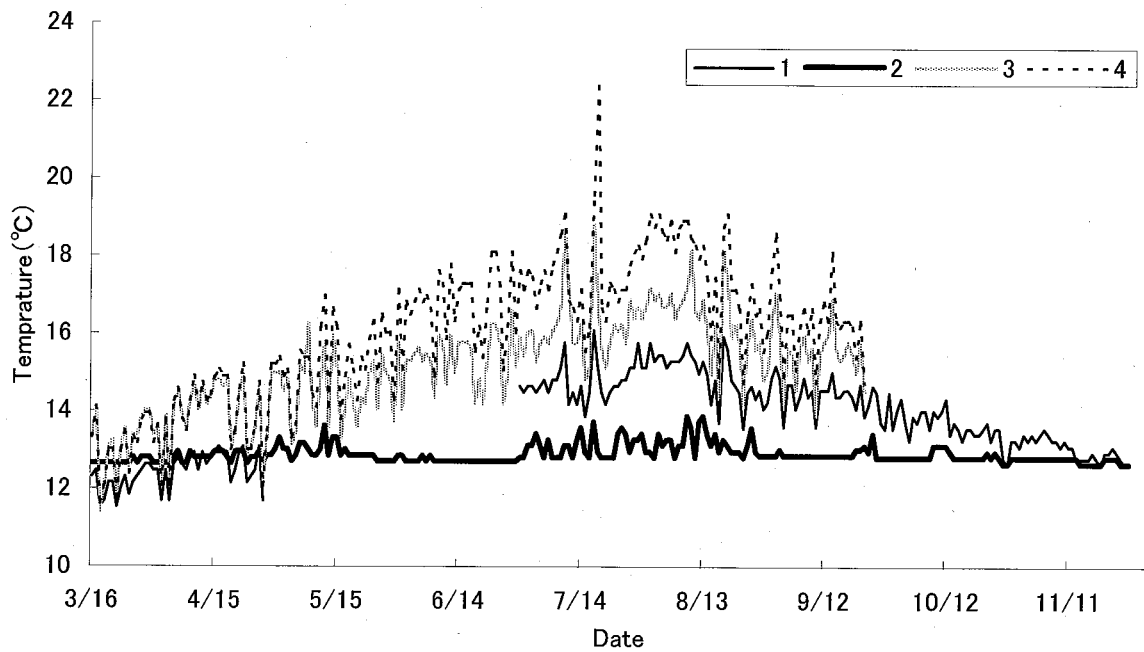


図2 平成16年の小見川の水温変化

[その他]

研究課題名：希少淡水魚の生態および保護技術の開発
予算区分：県単
研究期間：平成16年度（平成16年度）
研究担当者：河内正行
発表論文等：なし